

令和元年度 滋賀県高等学校秋季総合体育大会

柔道競技 《プログラム》

期 日 : 令和元年10月31日(木)・11月1日(金)

場 所 : 滋賀県立武道館(大津市)

参加校	男子	10校	80名
	女子	7校	20名

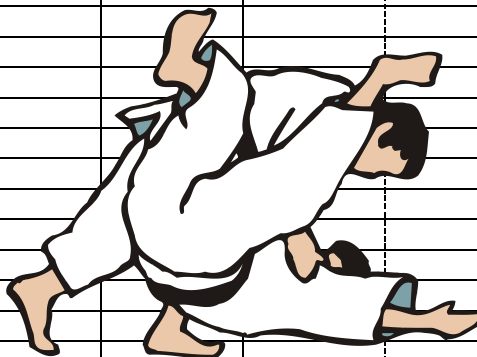


主 催 : 滋賀県教育委員会・滋賀県高等学校体育連盟

主 管 : 滋賀県高等学校体育連盟柔道専門部

秋季大会 栄光の記録 団体試合

	男子				女子			
	1位	2位	3位		1位	2位	3位	
昭和33年	近江 草津							
昭和35年	伊香	高島	長浜農	大津・定				
昭和36年	伊香	近江	瀬田工	八日市				
昭和37年	日野	伊香	高島	長浜北				
昭和38年	日野	甲賀	長商工	瀬田工				
昭和39年	大津商	甲賀	草津	伊香				
昭和40年	伊香	甲賀	長浜北	大津商				
昭和41年	大津商	伊香	守山	瀬田工				
昭和42年	日野	甲賀	膳所	八日市				
昭和43年	伊香	八日市	大津商	長商工				
昭和44年	伊香	膳所	比叡山	瀬田工				
昭和45年	伊香	守山	比叡山	膳所				
昭和46年	高島	伊香	草津	膳所				
昭和47年	守山	伊香	比叡山	能登川				
昭和48年	比叡山	伊香	石山	甲賀				
昭和49年	比叡山	伊香	膳所	能登川				
昭和50年	伊香	比叡山	彦根東	水口				
昭和51年	比叡山	伊香	彦根東	八幡工				
昭和52年	比叡山	伊香	彦根東	彦根工				
昭和53年	比叡山	伊香	彦根東	膳所				
昭和54年	伊香	比叡山	彦根東	膳所				
昭和55年	伊香	比叡山	彦根東	膳所				
昭和56年	比叡山	伊香	彦根東	膳所				
昭和57年	比叡山	伊香	八日市	堅田				
昭和58年	比叡山	伊香	長商工	高島				
昭和59年	比叡山	彦根工	膳所	伊香				
昭和60年	比叡山	膳所	八日市	堅田				
昭和61年	堅田	近江	伊香	膳所				
昭和62年	近江	高島	膳所	堅田				
昭和63年	比叡山	近江	膳所	高島				
平成 元年	近江	比叡山	草津	彦根工	玉川	愛知	水口	石山
平成 2年	比叡山	近江	草津	石山	水口	玉川	高島	伊香
平成 3年	比叡山	近江	玉川	八幡工	草津	伊香	守山	膳所
平成 4年	近江	比叡山	草津	守山	比叡山	草津	高島	石山
平成 5年	近江	草津	比叡山	石山	比叡山	草津	伊香	守山
平成 6年	近江	比叡山	草津	長商工	比叡山	草津	伊香	玉川
平成 7年	近江	草津	比叡山	高島	草津	比叡山	伊香	玉川
平成 8年	比叡山	近江	草津	長商工	伊香	草津	比叡山	近江
平成 9年	近江	伊香	比叡山	草津	伊香	草津	近江	虎姫
平成10年	近江	比叡山	草津	高島	草津	比叡山	近江	守山
平成11年	近江	比叡山	草津	高島	草津	伊香	近江	河瀬
平成12年	草津	近江	伊香	比叡山	草津	伊香	比叡山	近江
平成13年	草津	近江	伊香	比叡山	比叡山	高島	八日市	能登川
平成14年	近江	比叡山	草津	伊香	比叡山	草津	近江	伊香
平成15年	近江	瀬田工	草津	比叡山	草津	比叡山	近江	伊香
平成16年	近江	比叡山	伊香	草津	草津	比叡山	近江	伊香
平成17年	伊香	瀬田工	比叡山	近江	草津	比叡山	近江	伊香
平成18年	近江	瀬田工	伊香	比叡山	伊香	草津	近江	高島
平成19年	近江	伊香	瀬田工	比叡山	草津	伊香	近江	比叡山
平成20年	伊香	近江	比叡山	草津	比叡山	草津	近江	伊香
平成21年	近江	伊香	瀬田工	比叡山	比叡山	近江	能登川	草津
平成22年	近江	比叡山	瀬田工	能登川	近江	草津	伊香	比叡山
平成23年	比叡山	近江	瀬田工	伊香	近江	草津	比叡山	能登川
平成24年	近江	近江	伊香	瀬田工	近江	草津	伊香	
平成25年	比叡山	近江	伊香	瀬田工	近江	伊香	比叡山	兄弟社
平成26年	近江	比叡山	瀬田工	伊香	比叡山	伊香	近江	
平成27年	近江	比叡山	瀬田工	伊香	比叡山	近江	伊香	合同
平成28年	比叡山	近江	瀬田工	伊香	比叡山	近江	伊香	膳所
平成29年	比叡山	近江	瀬田工		比叡山	合同	膳所	
平成30年	近江	瀬田工	比叡山	伊香	比叡山	綾羽	合同	伊香
令和元年								



令和元年(2019年)柔道専門部競技役員

専門部長	山田 薫 (伊香高校 校長)		
顧問	平瀬 憲昌 (草津)	大橋 成年 (伊香)	
競技委員長	小林 重和 (能登川)		
同副委員長	三谷 忠義 (高島)	大橋 成年 (伊香)	
総務委員長	今井 達将 (綾羽)		
総務部 進行	今井 達将 (綾羽)		
記録	伴 禎 (高島)	山根 良行 (兄弟社)	古田 純一 (伊香)
式典	渡邊 澄子 (比叡山)	坂下 和子 (甲南高養)	
広報	井谷 利之 (綾羽)		
審判長	平瀬 憲昌 (草津)		
副審判長	坂下 覚 (膳所)		
審判部 第1会場主任	坂下 覚 (膳所)		
第2会場主任	生駒 有史 (近江)		
審判員	南 睦志 (瀬田工)	上田 健二 (伊香)	大橋 成年 (伊香)
	三谷 忠義 (高島)	小林 重和 (能登川)	林 正樹 (兄弟社)
	小松 広典 (綾羽)	米富 和郎 (比叡山)	向江村和也 (近江)
	坂下 星満 (能登川)	坂下 福満 (安曇川)	脇阪 博也 (伊香)
	林 弘典 (びわこ成蹊大) 中体連審判員		
会場係長	川那辺敬司 (比叡山)		
会場係 第1会場	◎川那辺敬司 (比叡山)	藤井 恒太 (綾羽)	藤井 知 (兄弟社)
第2会場	◎横山 佳代 (瀬田工)	井谷 利之 (綾羽)	
救護係 救護係	滋賀県柔道整復師会		
計量係 男子	生駒 有史 (近江)	米富 和郎 (比叡山)	脇阪 博也 (伊香)
女子	坂下 星満 (能登川)	坂下 福満 (安曇川)	渡邊 澄子 (比叡山)

令和元年度 滋賀県高等学校秋季体育大会 柔道競技 実施要項

◆会場 滋賀県立武道館（大津市におの浜四丁目2-15） TEL077-521-8311

◆開催日 令和元年10月31日(木)～11月1日(金)

◆試合 1. 男子個人の部
7階級(60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、100kg級、100kg超級) 段外の部
女子個人の部
7階級(48kg級、52kg級、57kg級、63kg級、70kg級、78kg級、78kg超級)
2. 男女団体の部

◆日程 1日目
予備計量 ～ 9:00
本計量 9:00 ～ 9:20 *計量は1回のみ
全体会議、役員会議 9:30 ～ 10:00
開会式 10:10 ～
男女個人試合

2日目
全体会議、役員会議 9:00 ～ 9:20
開始式 9:30 ～
男女団体試合

◆試合規定 1. 国際柔道連盟試合審判規定によっておこなう。(2018～)新規定
2. 試合時間は団体試合は3分、個人試合は、準決勝戦から4分、それまでは3分とし、リーグ戦は4分とする。

団体試合

①試合の勝敗判定基準は「技有」「僅差」以上とする。

* 僅差:「指導差が2」とする。

* 一本勝ち=反則勝ち > 技あり > 僅差

②チームの勝敗については要覧の別ページに定める。

③同点、同内容の場合、代表戦を行う。大将戦終了3分後におこなう。

* 代表戦は、その対戦に出場した選手の中から任意に選出しておこなう。

* 代表戦で得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦をおこなう。

④リーグ戦の順位は一本勝>技有勝の順に多いチームを上位とする。

* リーグ戦の場合は代表戦は実施しない。

個人試合

①試合の勝敗判定基準は「技有」「僅差」以上とする。

②試合終了時点で「技のスコア」が同等な場合、時間無制限のゴールデンスコアをおこなう。

③累積による「同時反則負け等」の場合のみ、時間無制限のゴールデンスコアにより勝者を決定する。

◆試合方法

〈団体試合〉

《男子》

I部とII部の2つに分けておこなう。

・I部は、春季大会上位4校でリーグ戦をおこなう。単独校であること。

・II部は、1校から2チーム以内と合同チームで、参加数に応じて次のように試合をおこなう。

① ~5チーム・・・リーグ戦

② 6~7チーム・・・予選リーグ後、上位4校のトーナメント戦

③ 8~ チーム・・・トーナメント戦

*出場選手が4名以下の場合、オーダーを後ろ詰めにする。

I部とII部の入れ替え戦をおこなう。

① I部の4位チームとII部ベスト4に残った上位1位単独チームで実施する。

《女子》

単独校と合同チームでリーグ戦をおこなう。

*出場選手が2名の場合、オーダーを後ろ詰めにする。

*女子の登録選出は、最大10名までとする。

1. 試合は1校1チームの男子は5名、女子は3名の点取り試合とする。

2. 男女ともオーダーはフリーとし、試合ごとのオーダー変更を認める。

3. オーダー提出は対戦校決定後、5分以内とする。

*リーグ戦の場合は、それぞれの試合での代表戦はおこなわない。

合同チームの編成について

1. 1校の部員数が、男子は5名に満たないこと、女子は3名に満たないこと。

2. 単独校で出場している選手との合併はできない。

3. チーム編成を、申し込み期日までに顧問間で決定できること。

〈個人試合〉

1. 男子は7階級と段外の部、女子の7階級とする。

2. トーナメント戦によって優勝を決定するものとする。

3. ただし、3人の場合、リーグ戦をおこなう。

4. 段外の部には、申込時までに講道館柔道昇段審査に合格していない者とする。

◆参加資格

1. 滋賀県高等学校体育連盟柔道専門部に加盟している高等学校生徒であること。

また、平成13年4月2日以降に生まれた者とする。

2. 転校後、6ヶ月未満の者は参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる)

但し、一家転住等やむを得ない場合、各都道府県高等学校体育連盟会長の許可があれば、この限りではない。

3. 同一学年での出場は1回限りとする。

4. 出場選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を受けた者であること。

◆選手変更

1. 大会2日目の午前9時までに大会本部まで申し出ること。(団体試合)

2. 団体試合の選手変更は、男子は2名、女子は1名を限度とする。

3. 個人試合での選手変更は認めない。

4. 出場選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を受けた者であること。

◆計 量

1. 男子は上半身は裸、ハーフパンツ着用とする。(柔道着の下穿きは着用不可)

2. 女子はTシャツ、ショートパンツとする。(国際ルールに準じた服装とする)

- ◆表 彰
1. 団体競技 男女各チーム1位から3位までの入賞チームを表彰する。
 2. 個人競技 男女各階級の1位から3位までの入賞者を表彰する。
- ◆出場権等
(付記)
1. 男女個人各階級3位までの選手には近畿高校柔道体重別選手権大会の出場権を与える。
 2. 段外の部の優秀者には、初段の申請の資格を与える。
 3. 新人大会のシード権を与える。
 - ①男子はⅠ部出場校の上位から与えられ、Ⅱ部の上位単独校の順とする。
 - ②女子は上位単独校から与えられる。
 4. 次年度、春季大会のシード権を与える。

◆申込締切

10月10日(木)の顧問会議開始10時までとする 10月3日(木)までにE-mailで申込を済ませておくこと E-mail kobayashi-shigekazu-4900@pref-shiga.ed.jp

◆その他

- 〈会場準備〉比叡山、綾羽、伊香高校でお願いします。
- 〈後始末〉全校、全生徒でおこないます。
- ・会場は大切に使用し、ゴミ・破損等のないように心がけてください。
 - ・貴重品の管理は、各校、各自でしっかりして下さい。

タイムテーブル

	第1試合場	第2試合場	備 考	
第1日目	開 館 : 8:30(注:時間までは開館しません) 予備計量 : 8:30 ~ 9:00 受 付 : 9:00 本 計 量 : 9:00 ~ 9:20(本計量は1回のみ) 開 会 式 : 10:10			
	女子個人戦(6)	女子個人戦5)	準決勝から4分(GS:無制限) 48kg級はリーグ戦	
	48kg(3) 57kg(3)	63kg(3) 70kg(2)		
	女子個人決勝(3):57kg 63kg 70kg (第1試合場)			
	男子個人戦		試合時間3分	
	60kg(16) 81kg(6) 100kg(1) +100kg(2)	66kg(10) 73kg(8) 90kg(3) 段外(4)	試合時間4分(GS:無制限)	
	男子個人 準決勝()			
	60kg(2) 81kg(2) 100kg(2) +100kg(2)	66kg(2) 73kg(2) 90kg(2) 段外(2)	試合時間4分(GS:無制限)	
男子個人決勝(7) 段外・60kg・66kg・73kg・81kg・90kg・100kg				
男女個人試合表彰式・閉会式				
第2日目	第1試合場	第2試合場	備考(数字は試合数)	
	開 館 : 8:30(注:時間までは開館しません) 受 付 : 8:50 開 会 式 : 9:30			
	1	女子 リーグ戦①(1)	女子 リーグ戦①(1)	試合時間:すべて3分
	2	男子Ⅱ部トーナメント1回戦(2)	男子Ⅱ部トーナメント1回戦(2)	
	3	女子 リーグ戦②(1)	女子 リーグ戦②(1)	
	4	男子Ⅰ部 リーグ戦①(1)	男子Ⅰ部 リーグ戦①(1)	
	5	女子 リーグ戦③(1)	女子 リーグ戦③(1)	
	6	男子Ⅱ部トーナメント準決勝(1)	男子Ⅱ部トーナメント準決勝(1)	
	7	女子 リーグ戦④(1)	女子 リーグ戦④(1)	
	8	男子Ⅰ部 リーグ戦②(1)	男子Ⅰ部 リーグ戦②(1)	
	9	男子Ⅱ部トーナメント決勝戦(1)		
	10	女子 リーグ戦⑤(1)	女子 リーグ戦⑤(1)	
	11	男子Ⅰ部団体戦 リーグ戦③(1)	男子Ⅰ部団体戦 リーグ戦③(1)	
	12	(男子Ⅰ部Ⅱ部入れ替え戦)		
男女団体試合表彰式・閉会式				

- * 競技の進行上、試合場を変更することがあります。
- * 昼食休憩は両日とも12:00をメドに30分程度とる予定です。放送等で指示します。
- * 団体個人とも3位決定戦は行いません。
- * 各試合会場へ補助役員をお願いします。(3年生)
- * 試合進行については、審判部と総務部で協議の上、当日変更する場合があります。

大会参加者に望む

1. 滋賀県高等学校柔道大会は、学校における教育活動の一貫として行われるもので、単に勝敗のみを争うものではない。このことは大会に対する滋賀県高体連柔道部創立以来の一貫した姿勢で、たえずこの具体化を検討し、望ましい大会のあり方を追求して今日に至っている。大会参加の諸君は、滋賀県高体連柔道部のこの基本姿勢を理解されるとともに、下記の事項に留意し、高校生にふさわしい理想の大会の実現に協力を願う。
 - (1) 大会を開催する地元のご苦勞に感謝し、会場を汚したり破損したりすることのないよう注意してもらいたい。
 - (2) 会場までの列車内でも街頭でも高校生として、また柔道選手としての誇りを忘れないでほしい。
 - (3) 勝負を決するための積極的な試合展開をしてほしい。勝負を決しようとしめない試合は、その意義を失い、技術の進歩もあり得ない。真摯敢闘、自己の最善を尽くしてこそ観衆に感動を与え、選手自身にとっても無上の満足感を与えるものである。
 - (4) 柔道着は、出場前に十分点検し、規定にふれることのないようにしておくこと。また、髭、頭髪などは、不快な感じや異様な感じを与えないように注意すること。

監督に望む

- (1) 大会会場ばかりでなく、会場までの途上にわたって選手を監督・指導されたい。なお、応援の保護者、関係者に対してもすべての責任を負う。
- (2) 選手に対する指導・助言は節度あるものとし、試合の前後に選手に対する指導・助言は十分に行い、試合中は選手の意思を尊重するようにされたい。
- (3) 大将戦においては、控え選手を全員、正座させるように指導されたい。
- (4) なお、大会中の服装は審判員の服装に準ずることが望ましい。

応援者に望む

- (1) 応援は選手の志気を高めるものであるが、審判員の適正な判断と大会運営の妨げにならないように節度あるものにしていただきたい。
- (2) 審判員や選手に対する暴言や品位を傷つけるような言動は絶対にしないでいただきたい。
- (3) 大会本部席前での応援は、大会運営上の支障になるので、指示された場所でする。

県立武道館 使用上の注意

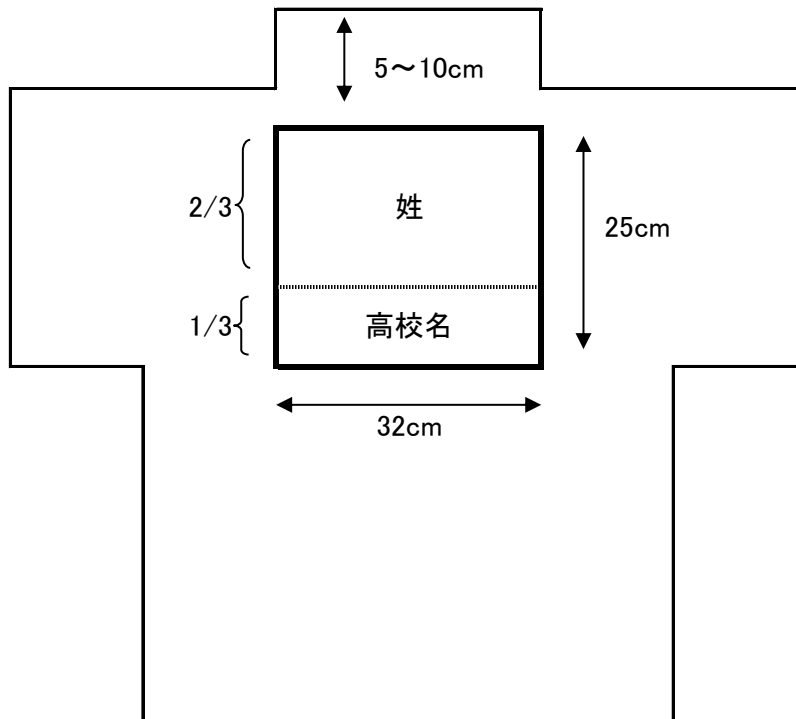
- 1 会場準備に当たっている学校は9時に集合して下さい。
- 2 後始末は全員で行います。
- 3 靴は各自ビニール袋に入れて更衣場所へ持っていくこと。
- 4 傘は玄関に間違わないように置いておくこと。会場内に持ち込まない。
- 5 館内においては高校生は武道館のスリッパを使用しない。
- 6 更衣は男子は団体リーグ戦の会場上のギャラリーで、女子は指定の更衣室で行うこと。
- 7 使用場所は柔道エリアに限る。他会場やロビーなどに行かない。
- 8 貴重品は各校で責任を持って保管すること。万一紛失しても専門部では責任をとらない。
- 9 各校で出したゴミは、各校・各自で責任を持って持ち帰ること。
- 10 会場へ入場は団体戦は出場校のみ、個人戦においては次に出場予定の5名までとする。その他の選手はギャラリーで観戦すること。会場が狭いので、試合がスムーズに運べるように、特にこの点を守るようお願いしたい。
- 11 本部席前(正面)は通ったり、座ったりしないようにする。
- 12 便所の下駄は次に使う人のことを考えて、きちんとそろえておくこと。
- 13 その他分からない点が生じたら、顧問の先生か、大会本部まで申し出ること。

◎武道館を美しく、大切に使うために、以上のことをしっかり守って下さい。

高校柔道大会の服装について

ゼッケン

- 1 大会に出場する選手は、必ず規定の要項にしたがってゼッケンを柔道衣の背中に縫いつけてなければならない。
- 2 布地は晒太綾(さらしふとあや)を使用すること。
- 3 サイズは横32cm、縦25cmとする。
- 4 姓は上側2/3、校名は下側1/3の部分に、横書きで男子は黒字、女子は赤字で書くこと。
- 5 縫いつけ方法については下記の図を参照すること。※強い糸で縫いつけること。
- 6 ただし、当分の間は従来の大きさでもよい。



女子 試合者は上衣の下に、相当の長さのある、次のいずれかを着用すること。

- 1: アンダーシャツは、白色無地、丸首のTシャツまたレオタードであること
- 2: アンダーパンツは膝までの丈であること

男子

アンダーパンツは膝までの丈であること

ゼッケンのない選手は、試合に出場できない。

勝ちに不思議の勝ちあり、

負けに不思議の負けなし

勝負は時の運とはいふものの、ひとつだけはっきり言えることがある。

偶然に勝つことはあっても、偶然に負けることはない。

失敗の裏には、必ず落ち度があるはずなのだ。

「たまたま運がよかった」というのも、もしかすると、運を味方につけるような努力をしていたのかもしれないし、知らないうちに徳を積んでいたのかもしれない。だとしたら、運の善し悪しを決めるのは、日々の過ごし方の如何によるのだろう。

勝った負けたで一喜一憂する必要はない。

そこから何を学びとるのが問題なのだ。

何をもって成功というのか失敗というのかは、人それぞれ。

ただし、二度と同じ目には遭いたくないと思うことがあるなら、それは失敗に学ぶべきではないか。

ちょっとした手抜きが勝敗を分ける。

先手をうった準備と努力をしていれば、危機を察知する直感力は冴えてくる。